

登録コード	A3591302	開講年度	2026				
授業科目	プレゼンテーション演習					担当教員	大神田 淳子
英文授業名	Presentation						
単位数	1	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	3年生（研究室配属後の学生対象）
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前カリ対象】専門的な知識や研究能力を修得している					スライドを用いて研究進捗報告と研究論文抄録を合理的に発表する能力を修得する。	
	【2022年度以前カリ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					必要に応じて英語のスライドを用いて研究進捗報告と研究論文抄録を合理的に発表する能力を修得する。	
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前カリ対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					スライドを用いて研究進捗報告と研究論文抄録を合理的に発表する能力を修得する。	
	【2024年度以前カリ対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					必要に応じて英語のスライドを用いて研究進捗報告と研究論文抄録を合理的に発表する能力を修得する。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では、研究に必要なプレゼンテーション力を身に付けるために、月例研究進捗報告や研究論文抄録をスライドにまとめて発表する。背景、問題設定、仮説の設定、戦略、実験結果、考察、結論、今後の予定、の流れを基本とする研究論文のロジックの組み立て方を学ぶ。他者のプレゼンテーションを聴講し、質問をする。気を付けたいのは、プレゼンテーションのためのプレゼンテーションにならないこと。プレゼン技術に懲りすぎ、実験結果を誇張するかのようなプレゼンほど自らを危険にさらすものはない。何のためのプレゼンテーションかを常に考え、本末転倒にならないように気をつけよう。						
(5)授業計画	1 プレゼンテーションのロジックの組み立て方 2 資料の作り方 3-15 自分の研究ならびに研究に関連した論文について、スライド等を用いて発表する。質問の仕方についても学ぶ。 最後の授業回に授業アンケートを実施する。						
(6)自主学習の指針	プレゼンテーション技術を身に付けるには、どのようなプレゼンが良いプレゼンか、悪いプレゼンかを判断できる適切なセンスを身に付けることが重要と思います。自分の研究力の成長と比例するので最初は少し時間がかかります。ひとつの手段として、良いプレゼンテーションのお手本に接することを推奨します。セミナーやシンポジウムに積極的に参加して良い講演を数多く聞くとだんだんわかってきますようになります。そのためにはもちろん研究内容が理解できなくてはなりません。研究力とプレゼン力が研究の両翼を担うというのはこのためです。最近ではインターネットを通じて、世界中の優れた研究者の講演も学ぶことができます。						
(7)成績評価の基準	取り組み姿勢により評価する。						
(8)事前事後学習の内容	プレゼンが出来上がったら、徹底的に練習をする。想定質問と準備して明快に回答できるよう事前準備しておく。						
(9)テストやレポートの予定	なし						
(10)成績評価の方法	授業計画に挙げた内容に対する取り組みの成果を総合的に判断して評価する。なお出席回数の1/3以上欠席した場合は不可とします。 評価基準： S：90-100，A：80-89，B：70-79，C：60-69，D：59以下						
(11)質問、相談への対応および連絡先	研究室内で随時対応する。						
(12)履修上の注意	出席が2/3に満たない受講者には、単位を認定しない。						
【教科書】	特に指定しない。						
【参考書】	随時紹介する。						